

2024休眠預金通信

山梨号
VOL.5



コレクティブインパクトで実現する持続可能なまちづくり
～甲信地域の限界集落、過疎地、消滅自治体と呼ばれる小さな地域から～

編集：山梨県社会福祉協議会
福祉振興課
コミュニティ再生推進担当

4つの実行団体の拠点では、自然豊かな環境の中、暑さとともに若葉の色鮮やかな季節を迎えています。それぞれが思い描く「持続可能なまちむら」に向かい、イベントや活動を行う良い季節になりました。

PO※の7月の訪問活動等の内容を中心に、各団体の活動について紹介します。

※POとは、プロジェクトオフィサーの略。助成事業の進捗管理や伴走支援を行う役割。

実行団体ミーティングを開催しました

休眠預金活用事業も2年目の年度を迎え、これから各実行団体にてさらに取り組みを進めていくこととなります。1年目の各団体の苦労を労いつつ、これまでの事業活動を振り返るとともに、互いの進捗状況や困りごとなどの情報交換、今後に向けてのアクションを共有することにより、さらに事業をブラッシュアップできるよう、6/24に実行団体ミーティングを開催いたしました。

今回は、実行団体の1つである「多摩源流こすげ」さんの活動拠点を中心に、午前中フィールドワーク、午後には各団体の発表としました。

こすげさんのフィールドワークでは、団体の説明や自己紹介の後、こすげさんの畑を見学。小菅村独自のジャガイモなどの栽培の様子や村の遊休農地の

の実態などのお話を伺いました。その後、

こすげさんの事業の

中心となる「一宿一助の宿・結」にて、昼ご飯とし、その際に、ジビエファクトリーさんの道志村で獲れたジビエを食べました。今回は焼いた鹿肉と鹿肉ボロネーゼで、お肉はとてもやわらかく仕上がっており美味しかったです。

各団体の発表では、事業のアウトカム・アウトプットや活動、どんなコレクティブインパクトを目指しているのかを共有しました。

共通した課題などもあり、それぞれ事業を振り返る良

い機会となりました。



山作LLC合同会社（富士川町）

木育と地域通貨で、支え合う地域の仕組みを育む



「さとまちメダル」はナラ枯れの木からできています

里山部分では、富士川町産材の活用を目指し、試行錯誤をしています。製材機を導入しており、木材を扱いやすい形にして地元を活用してもらうよう模索中。自分の住む町の木材でDIYできる日がくるかもしれません。

まち部分では、以前アセスメントの聞き取りから「こどもの体験不足」という地域課題があげられたことを取り上げ、地元の児童館にて出張木育イベントを計画しています。まちの課題を里山という資源を通して解決していく仕組みに、こども

もたちがどう反応していくのか楽しみです。

また、イベントで地域通貨の試験運用を継続しておこなっています。6月は、自然素材（どんぐり・枝・葉など）の収集体験の参加者にメダルを発行し、使用用途を「次回イベント参加料（200円相当）」「記念メダルとして持ち帰る」の2つから選択できる仕組みでおこないました。

新聞で取り上げられました→



特定非営利活動法人多摩源流 こすげ（小菅村）

「一宿一助の宿・結」改修工事をおこなっていたため、宿を使つての住民との交流イベントはできませんでしたが、8月に壁塗りワークショップ、11月にフローリングづくりワークショップを行う予定になっています。また、薪ボイラー導入に向けた打ち合わせでは、建屋改修費として追加でお金が発生することがわかり、クラウドファンデ



梅しごとを終えていた事務所

「一宿一助」で地域と人がつながる、新しい滞在のかたち



イベントページ

イングの実施を検討中。

村の社会福祉協議会等とミーティングを行い、宿を通して地域食堂などの事業が一緒にできないか連携を模索しています。宿が整っていく中、どんな方法で拠点として活用していくのかどんどん試していってほしいです。

特定非営利活動法人みんなの街 (北杜市)

“生きづらさと担い手不足、双方を支える
ウェルネス拠点づくり



事務所のまわりも緑濃く

秋頃に開始予定の小屋作りプロジェクトの準備を進めています。プロジェクト参加者を募集するため、告知方法は前回と同様、チラシ、SNS、ホームページ、Facebookを利用する予定。今回のプロジェクトでは、3棟の小屋を建設する予定で募集をかけます。

地区の新しい区長さんや近くで活動するNPO団体、フリースクールの代表の方など、地域で活動する方と関わり合いを持つことができました。地域のことやこの事業のことを共有していくなかで、新しいコレクティブなつながりがうまれています。連携が事業を充実したものにしていけるように、活動していったほしいです。



事務所も空き家を自分たちで改修しています。

GIBIER FACTORY合同会社 (道志村)

ジビエを通じて、山から街へ広がる
流域循環モデル



給食のジビエのキーマカレー

6/18山中湖村小学校、6/24道志村小学校の学校給食でジビエを使用していただきました。栄養士の先生を通して、地元のジビエのお話もしていただいています。地元のこどもたちにも、ジビエが地域の誇るべき資源であることが伝わると嬉しいです。また、ジビエ解体車のマニュアルが完成しました。解体加工未経験の方でもお願いできるようなマニ

ュアルになったので、働く方をもっと増やしていこうと考えています。興味のある方、道志村の新鮮で美味しいジビエに関わってみませんか。

5/1に道志村役場・猟友会・道の駅・ジビエファクトリーで「道志村ジビエ利活用協議会」が正式に設立しました。道志オフィスとして新たに村内に拠点を設け、様々な視点から活動を連携して行う予定です。



道志村ジビエ利活用協議会